市長日記 むーナーゲー

無罪礙

南魚沼市長　林　茂男

ポスト・コロナ
～雪国からの挑戦①

1年もこの脅威に晒され続けることになろうとは。当市も多くのことを経験してきました。クラスターの発生やその後の感染増の脅威がある中で、さまざまな呼びかけをしてきましたが、当市においては感染者への差別や偏見、人権侵害に相当するような深刻な行為が無かったこと、市民のみなさんの良識に市長として心から敬意を表します。

いまだに感染が収束する見通しがつきませんが、今後のワクチン接種の開始が少しでも明るい方向に転じる起点となることを期待しています。しかし困難が予想されます。昨年の国による一人あたり一律10万円の特別定額給付金でも給付作業は大騒ぎだったわけですが、このたびのワクチン接種はこれほどに重大であるにもかかわらず強制ではなく任意で行われる予定です。しかも現時点で、接種対象は16才以上で一人あたり2回の接種が必要なことから、市では8万回を超える集団接種を短期に成功させなければならない。通常の医療サービスを続けながらの大規模な集団接種は、経験・前例のない「作戦」として臨むことになります。市民のみなさんのご理解とご協力を切にお願いいたします。

昨春、著名な歴史学者がある月刊誌で、流行は第3波まであると言い、歴史的に人類は疫病を乗り越えてきた事例を紹介する中で、ルネサンス文化はあのペストの猛威の後に花開いた、とも。なるほど、自国第一や保護・民族主義に傾きかけ、同時に経済至上主義がまん延している世界で起きたこのコロナ禍は、この流れにブレーキをかけ、新しい変化を生みそうです。

コロナ後の世界スタンダードの最たるは「地球環境を守るために」が最大の価値になるでしょう。「日本は2050年までに脱炭素社会をめざす」と首相が発表した翌日、私は小泉環境大臣と面会しました。前週には橋本聖子東京オリンピック・パラリンピック担当大臣にも。

小さな雪国の自治体首長が何を両大臣に伝えたかったのか、次号・連載でお伝えしたいと思います。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～ boast of my country ～

シリーズ 第94回

コンゴ民主共和国 クリスチャン ジェロ ニヒマビャムング さん

私の国はこんなところ

コンゴ民主共和国はアフリカ大陸の中央に位置します。1960年に独立した国で、初代首相に就任したパトリス・ルムンバ氏や、2018年にノーベル平和賞を受賞したデニ・ムクウェゲ医師の活動などの歴史があります。アマゾンに次ぐ森林面積を有し、地球の肺ともいわれるコンゴ盆地の森林、世界最大級の泥炭地、コンゴ川、豊かな生態系を有する淡水のタンガニーカ湖など自然豊かで広大な国です。また、コバルト、銅、金などの天然資源大国でもあります。250を超える数の民族が暮らし、多様な文化に触れることができます。希少動物のマウンテンゴリラ、オカピ、ボノボなどにも出会えます。

コンゴ民主共和国

［公用語］フランス語
［首　都］キンシャサ
［面　積］2,345,410㎢（11位）
［人　口］84,068,091人（16位）
［GDP(PPP)］206億ドル（81位）
［通　貨］コンゴ・フラン（CDF）

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説（PPP）により算出した数値です

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼での一番の体験は八色スイカを食べたことです。人生で最も甘くてジューシーなスイカを味わいました。灼熱（しゃくねつ）の太陽の下で、新鮮で爽やかな八色スイカに勝るものはありませんでした。地域の人びとによる温かく心のこもったおもてなしも良い思い出です。